

## 自助，互助と扶助

江藤 芳浩

公益社団法人日本診療放射線技師会 副会長

「国があなたのために何ができるかではなく、あなたが国のために何ができるか、問い掛けてください。(Ask not what your country can do for you, but what you can do for your country.)」ご存じの方も多いと思いますが、これは1961年、第35代アメリカ合衆国大統領、ジョン・フィッツジェラルド・ケネディ (JFK) の有名な就任演説です。第二次大戦後の冷戦時という特殊な状況下での発言だとは思いますが、国民が国家を頼る扶助の精神ばかりでは国家はもたない。国民が国家とお互いのために進んで行動を起こそうという自助と互助の精神を唱えています。このケネディ大統領が敬愛したとされる日本の政治家に、上杉鷹山という人物がいたことをご存じでしょうか。鷹山は高鍋藩主の次男として生まれ、10歳で米沢藩主上杉重定の養子となりました。その後、藩主となって財政破綻していた米沢藩政を建て直し、自助、互助の精神が豊かな国を造るということを、ケネディ大統領就任の200年前に実証した人物です。戦前は小学校の教科書に登場していたそうですが、異国の大統領が模範としていたことに感心させられます。



さて、本会事業の根幹である生涯学習は、新生涯学習システムとしてラダー方式を採用し、昨年度より運用を開始しています。このラダーシステムは、医療人としての資質向上を図ることを目的に、全ての会員の継続教育の規準と目標を明確にして、統一された基準で評価するものです。クリニカルラダーとマネジメントラダーから成り、設定された各レベルの到達目標が示されています。レベル1は新人教育、レベル2はジェネラリスト、レベル3からはスペシャリストの教育とし、レベル4は本会が目指す専門診療放射線技師を想定しています。なお、レベル3からはクリカルラダーを「画像診断系」と「放射線治療系」に分け、「管理職教育」としてマネジメントラダーを設けています。診療放射線技師は、国家資格者としてその使命を全うするために、生涯にわたって知識・技能の向上に努める義務があり、免許更新制度のない現状において統一した物差しで評価する生涯学習システムは、国民の信頼に応えるために診療放射線技師が自主的に参加すべきものと考えています。またそれによって特別な待遇を期待するものではありませんが、本会としては、自己研鑽<sup>けんさん</sup>に努める会員とその成果を社会に認識していただき、会員がさらに向上心とモチベーションを高めて臨床業務に励んでいただけるよう、さまざまなバックアップをしていかなければならないと考えています。なお、非会員の方々には、ぜひ本会会員となっただき、特に臨床業務に携わる全ての診療放射線技師が新生涯学習システムに積極的に参加していただくことを切に願っております。

今、さまざまな要因によって社会や医療の先行きが不透明になっています。診療放射線技師の専門性と業務を見つめ直し、国民医療のために何ができるかを主体的に考える必要があります。本会は診療放射線技師職の継続と発展のためのVisionを掲げ、実現に向けた短期～長期計画を立て実行してまいります。技師会が会員に何をしてくれるのかを問うだけではなく、個々の会員が技師会と診療放射線技師の将来のために、何ができるのかを考えて積極的に行動を起こしていただければ、これ以上心強いものはありません。その成果は必ず診療放射線技師にフィードバックされると考えています。ケネディ大統領は「如何なる犠牲、如何なる危険を伴おうとも、全ての危険の中で最も大きな危険は、何もしないということである。」という言葉も残しています。また鷹山は「為せば成る、為さねば成らぬ、何事も、成らぬは人の為さぬなりけり」と詠んでいます。今後とも、会員各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。